

# 消費生活センター だより

No 544 3月号  
2021年3月1日  
発行 町田市  
消費生活センター  
運営協議会広報部  
町田市原町田4-9-8  
Tel042-725-8805

2020年12月5日開催講演会

## お笑い芸人・マシンガンズ 滝沢氏と考える“ゴミ問題”

当日は新型コロナの感染拡大が続く最中ではありましたが、ホール入口での検温と手指の消毒、マスク着用の確認を行い、座席の間



隔をとる万全の感染防止対策の中、募集定員（94名）満席の参加があり、ごみ問題に対する市民の関心の高さを実感させられました。

滝沢秀一さんは太田プロダクション所属のお笑いコンビ「マシンガンズ」メンバーであると同時に2012年から東京都区内でゴミ収集車の仕事もされています。清掃の仕事で気付いたこと・感じたことを本の出版や講演活動を通じて発信し、これまで多くの方々の共感を得てきました。昨年10月には環境省の「サステナビリティ広報大使」にも任命されています。

### 「ゴミ集積所は自宅のゴミ箱ではない」

ゴミ回収をしていると実に様々なゴミの出し方に驚くことが多々あるそうです。

「ストローが入ったままの飲みかけの飲料容器」「味噌汁が入った袋」、使用済みのマスクやティッシュがそのまま捨ててあるのを回収する時はコロナ禍ゆえに「恐怖」を感じた、とおっしゃっていました。一方、清掃員の安全を気遣い、竹串などの尖ったものを紙箱や容器に入れて出してあるゴミもあるそうです。ゴミの出し方ひとつにもその人のモラルが表れるのかも知れませんね。

### 「まだ食べられる物が捨てられている現実」

清掃員はゴミを回収して焼却場に運ぶのが仕事です。たとえそれがまだ食べられる物であっても、ゴ

ミ置き場に捨ててあればそれは「ゴミ」になります。

「開封前の菓子パンやサラダ」、「傷んでもいないジャガイモ」、「袋ごと開封されていないお米」、まだ食べられるスイカが丸ごと1つ、ゴミ収集車の回転板に入り粉碎されていく・・・とても勿体ないことだとは思いませんか？「世界には貧困や紛争で食料が不足している国々があるのに、まだ食べられる物がゴミとして捨てられているのはとても悲しいことです。」と滝沢さんはおっしゃいます。

### 「3Rから4Rへ」

皆さんは3R-Reduce(リデュース)・Reuse(リユース)・Recycle(リサイクル)ーはご存知でしょうか、滝沢さんはさらに **Respect (リスペクト)** を加えた **4R** をキーワードに提案されています。4つ目の R は食品や品物を尊敬(リスペクト)するということです。お金を払って購入した物であれば、たとえまだ使用できる(食べられる)状態であってもゴミとして捨ててしまっても良いのだろうか？それは人間の傲慢さなのではないだろうか。「**ゴミにするかしないかはその人の心が決めるのです**」「**出されたごみはその人の品性を反映している**」と滝沢さんはおっしゃいます。これは、日々、ゴミ回収の仕事を体験してきているからこそ見えてきた滝沢さんの痛切な叫びのようにも聞こえました。

今回の講演会を拝聴して、これまで漫然とゴミ出しをしている自分を振り返り、ゴミの減量のことや毎日大変な思いでゴミ収集の作業をされている清掃員の方々へのリスペクトも大切にしたいものです。

(文責：広報部)



いつもありがとう！